露地・雨よけサクランボ　情報

JA 中野市サクランボ部会・ＪＡ中野市園芸課

「結実確定後～収穫前までの管理作業」

凍霜害の影響で結実不良が散見されています。着果量が少ない場合は摘果を見送り、次年度の花芽を確保するため、新梢管理（摘芯）を実施しましょう。

１．摘果

（１）目的

①果実の肥大促進　②着色･糖度の向上　③樹勢のバランス維持　④収穫作業の軽減

（２）摘果の時期

①不受精果等の生理的落果終了後で大豆大の頃

②遅れると効果は低くなるので、できるだけ早目に実施する。（佐藤錦は生理落果があるので注意する）

（３）摘果の注意点

＊樹勢の弱い樹は、強めに摘果する。＊樹勢の強い樹は、弱めに摘果する。＊佐藤錦は、弱めに摘果する。

＊ハサミの先などで果実に傷をつけると裂果の原因となるので注意する。

＊露地は摘果すると裂果が多くなるので、基本的に奇形果実･病害虫果・障害果・未受精果実に対して行う。ただし、着果過多の場合は実施する。

（４）摘果の方法

①結実過多の樹を実施：荒摘果をひと通りしてから仕上げを行う⇒玉張り･品質が揃いやすい。

②１花束状短果枝（１クラスター）当たり３～４果程度を残す。（1 果当り３～4 枚以上の葉）

③摘果する果実

果実肥大の劣る果実、果柄の短い果実･傷果、奇形果･双子果・病害果

④残す果実

縦長の果実・肥大良好果、果梗が長い果実

２．かん水

（１）落果直後の肥大初期と硬核期前を重点に、各２０㍉程度。

（２）果実の地色が抜け始めると裂果の恐れがあるので、この時期からは控えめにして散水程度にとどめる。

＊土壌水分の急激な変化は裂果をまねくので、かん水の量や間隔には十分注意し過乾･過湿はさける。

＊結実量が少ない樹や強樹勢樹は裂果しやすいので、全体的に控えめにする。また、畑かん等の樹上散水はしないで、あくまで地上部散水を行う。

３．新梢管理

（１）５月中旬を過ぎると新梢の生育が旺盛になり樹冠内が暗くなるので、この頃から新梢管理を行う。

（２）結実量が少ない場合は生育が旺盛になりやすいので、今回及び夏季剪定で実施する。

（３）摘芯(主幹形は必須)

＊盃状形・開心形は、徒長枝や枝が繁茂している箇所を行う。

①摘芯の効果：新梢生育の抑制・花芽着生の促進・果実着色促進・枝のハゲ上がり防止

②時期と方法

- ５月中下旬頃実施(満開後３～４週間)
- ５～６芽程度残して摘芯する。（葉で４～５枚）一般には基葉３～５枚程度、約２ｃｍ程
- 強い新梢は若干長めに残して摘芯する。

次頁へ

（４）捻枝・誘引⇒特に若木は樹形形成に必要

①落ち着いた結果枝を確保したい場合は、徒長枝になりそうな強い枝を捻枝、誘引し花芽着生を促す。

②捻枝は、新梢の基部を両手で持ち、開かせたい方向で徐々にねじる。

③誘引は基部を開かせることを考え、新梢の基部を３０度、先端は４５度程度をめやすに実施する。

④新梢が木化する前には行う。

４．着色管理

＊果実の着色促進をはかるため光を十分取り込む。

（１）摘芯･誘引を実施して、下垂している結果枝は支柱や枝つりをする。

（２）葉摘み：収穫予定の７～１０日前頃から行い、果実に直接覆いかぶさる葉を摘み取る。
摘み取る葉数は、果そう葉の３分の１程度を限度に、できるだけ少なめにとどめる。⇒肥大に影響

（３）葉上げ(雨よけハウスで実施)：葉摘みには限界があるので、輪ゴム・テープナー等で葉を束ねる。

（４）反射マルチの利用(樹冠内に十分に光が入るようにしておく。着色始め頃から設置する。
白色マルチでは、・タイベックなどを使用しましょう。
着色を得られた部分は早めにしまう。
高温による障害⇒日持ち不良・ウルミ果・過熟果・果実焼けの発生。

５．その他

（１）雨よけハウスの被覆⇒５月下旬

（２）晴天時は天窓・サイドを開ける。高温による着色不良やウルミ果の発生を防ぐため、こまめに実施する。

①摘果の方法

摘果前

摘果後

②摘芯の方法

摘芯前

摘芯後